京浜運河（協会桟橋）での水温観測

当協会では、都漁連水産会館横の京浜運河にある協会桟橋において、平成 4 年から平日の朝 9 時に水温観測を行っています（図 1）。そこで、これまで 32 年間の観測結果を簡単にまとめてみました。

まず、令和 6 年の観測結果ですが、月平均水温は 2 月が最も低く 13.7℃、8 月が最も高く 28.4℃でした。過去 20 年の平年値と比較すると、7 月から 9 月は平年より 0.6～1.8℃高く、1 月から 3 月、11 月、12 月は平年より 0.6～1.7℃低くなっていました（図 2）。

次に平成 4 年からの 32 年間の観測結果ですが、年別の年間最高水温と最低水温、平均水温推移をみると、最高水温は 25.0～33.7℃、最低水温は 8.2～14.5℃、平均水温は 17.7～21.6℃の範囲で推移しており、この 32 年間で年最高水温は 3.2℃、最低水温は 2.1℃、年平均水温は 2.7℃上昇していました（図 3）。

これまで当協会のトピックスでもお知らせしたとおり、キチヌの採捕数増加（No.88）、ヘダイの採捕（No.83）、カライワシ、カイワリの採捕（No.79）、セトミノカサゴの採捕（No.55）やカタボシイワシの採捕など、主に西日本に生息する魚種の採捕数の増加はこのような水温上昇が影響しているものと思われます。

水温上昇に伴う環境変化により、今後も様々な影響が出てくることが予想されます。今後も調査を通して東京湾湾奥の現状を把握していきます。

図 1　水温観測地点

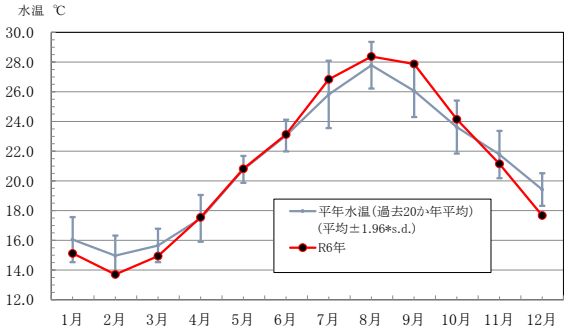

図 2　令和 6 年の月平均水温と平年値

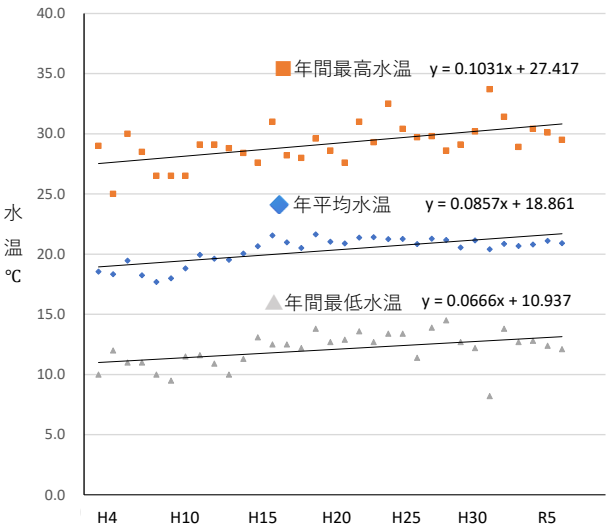

図 3　年間最高および最低水温と年平均水温の推移